

交通死亡事故ゼロ 一〇〇〇日記念入賞作文

無火 災

月瀧小学校四年 諏訪里枝

わたしが、新潟へ行くときよく事故がおこっています。お母さんのじつ家で、天気の良い日など、外で遊んでいると救急車の音が聞こえてきます。消防車の音なども聞こえてきます。

去年の十月ごろ、新潟のお母さんのじつ家に遊びに行ってきたときです。近くの家の友だちと遊んでいたとき、きゅうに、火事のサイレンがなりだしました。みんな遊ぶのをやめてサイレンの音を、じっと聞いて、どこが火事なんだろう。だいじょうぶかなあ。はやく火が消えるといいけどなあ。と思いました。そのとき一人の友だちが、「なにか家の方でサイレンが聞こえるから行ってみよう」と走って行きました。わたしもついて行きました。横断歩道をわたって古町に出ました。なんだか、だんだん音が大きくなったように聞こえました。わたしは

どことが火事かなと辺りを見まわしても火事は、どこにもなかったのよかったです。でも友だちの家が火事だったら、わたしたちのついたあとにはもう家はすっかりやけてしまっていたのかなあと思うとなんだかよけいこわくなってきました。

こわい交通事故

月瀧小学校四年 近藤 美枝子

私は、交通事故には、あつたことがありません。でも、おばさんは、車に乗っていて男の子の飛び出しにあいました。その子どもは、尊い命を失ってしまいました。

私は、お父さんと、げん場を見に行きました。その時はおばさんとは知らず通って来ました。家に帰って、おばあさんが、「どうだった」といいました。私は、「ただ、ふつうの交通事故で、きゅうきゅう車が来ただけ」といって少しすると「しみずのおばさんだよ」とききました。そうしたら、お父さんもお母さんもみんながびびりしました。私は、すぐびびりしました。私に、この事故がうそであってほしかったです。

もう一つ、私の身近にあったことの中では、お父さんが大きい道を通っていたら、細い道から、大きい道に出ようとする高校生のバイクが一時停止の所を止まらなかったそうです。お父さんは、車を止めるのにたいへんだったそう

わたしの家では、火事をおこさないようにするために、火をつかっているときは、そこからはなれない。心の中でおこないと心がけたり、しようかきを火をつかうところにおいたり、火がついてないかとかねんりにしらべたり、そうじをしたあと火に水をかけるなどいろいろ気をつけています。でも、千日間つづいて

交通安全運動

月瀧小学校六年 大橋 更彩

私のすんでいる月瀧村ではもうすぐ交通死亡事故ゼロ千日をむかえるので、みんなよろこんでいます。

私は毎日、水泳の特訓でおそくなりませんが夏なのでくならなくてうれいす。

私は、手しんごうはするのですが一時ストップはしません。一時ストップしなくて事故にあいそうになったことはたくさんあります。

私が自転車にのって道路へ出たら、ちょうど車が来てびびりしました。でも「ごめ

たからってもうやらなくていいという考えはしないで、ほんたいに、千日もつづいたんだからもっとがんばればもっともつづくかもしれないし、がんばろうと思う考えをもつと、とてもいい村になるんじゃないかなあと思います。これからも火事をおこさないように気をつけたいと思います。

「お父さん、お酒と車どっちにするの」と書いてある、ひょう語があります。私はお酒をのんだらけっして、車にのらないでほしいと思います。交通事故は、大へんおそろしく、いやなことです。

子どもたちでふせげろ、飛び出しを私は、ふせげたいと思います。でも、運転手さんも交通安全には、心がけてもらいたいんです。死亡ゼロ千日は、すばらしいことです。月瀧村は、死亡事故が千日

命を守るシートベルト

月瀧中学校三年 鷲尾 美恵子

私の父と母は車を運転しますが、二人とも運転するときには、あまりシートベルトをつけません。また私も助手席に乗ったときは、いたずらにシートベルトをつけたときがあります。それは四、五分のことです。すぐはずしてしまおうのです。なぜしっかりシートベルトをつけないのかといえ、シートベルトは体をシートにおさえつけるので、あまり身動きがとれなくなるということと、自分は事故についてまったく無関心で無縁のものと思っているからだと思

ときどきテレビでシートベルトをつけた場合とつけない場合との事故にあった時のケガの大きさを比較などをして見ます。私も見たことがありますがつけたときとつけないときとは、つけたときの方がずつとケガは軽くすむので